

人生ハンド仏句

うらぼん

盂蘭盆 (目蓮聖人御書)

住職 谷川寛俊

「悪の中の大悪は 我が身にその苦を受くるのみならず、子と孫と末七代までもかかり候ひけるなり。善の中の大善も又々かくのごとし。目連尊者が法華経を信じまいらせし大善は、我が身 仏になるのみならず、父母等、存外に仏となり給う。」

悪の中の大悪は、その行為をなした自分一人が報いの苦しみを受けるだけでなく、子と孫と末七代の子孫にまで伝わり、苦しまなければならぬのです。

善の中の大善も同様です。お釈迦様のお弟子の目連尊者が成仏したのみならず、父母も仏になることが出来たのです。

上は七代の先祖、下は七代の子孫、上は無量の生の父母、下も無量の生の父母達が、思いもよらぬ

第89号
H. 21. 8. 1
(毎月1日発行)

仏果(成仏)を得たのでした。

本文は、お弟子の一人が身延山にいた日蓮聖人に、七月十三日のお盆に供養の品々を贈り、お盆の由来を尋ねたのに対するご返事の一節です。目連尊者という人は、お釈迦様の十大弟子の中でも神通第一と称される高弟で、我が国の先祖供養に対する風習になって、お盆の起源を作った人として有名であります。

母親思いであった目蓮さんがある日、亡くなった母親が今どうしているだろうかと得意の神通力で死者の世界を見通してみました。すると驚いたことにお母さんは餓鬼道に落ちて、水も食べる物もなく、もがき苦しんでいました。あの優しかった母親がどうして餓鬼道に落ちたのか、そしてどうしたらお母さんを救うことが出来るのか、お釈迦様に尋ねられました。「目連よ、そなたの母は、そなただけ可愛いがって、他の人には優しくしなかった。それがむさぼり

編集・発行
玉蓮山 真成 寺
編集部 谷川久仁子
TEL・FAX (0765)22-2268
メールアドレス
kokorochanthk@ybb.ne.jp
ホームページアドレス
<http://www.geocities.jp/sinjyoujitoyama108/>



の心を生み、ついに餓鬼道に落ちてしまったのだ。お母さんを救う方法が一つだけある。七月十五日にお坊様達の長い修行が、一区切り終わる。この日に心も身体も清らかになつたお坊様に供養し、そなたの母だけではなく、七世の父母に至るまでの人々の為に祈りを捧げてもらいなさい。」

やがて目連は指示に従い、母を救うことが出来たのです。この餓鬼供養は、亡者の苦を脱せしめる法として、インド・中国・日本に仏教信仰と共に、定着して今日に至っています。今月はお盆の月です。心からご先祖様に供養の誠を捧げましょう。

怒って鏡をのぞいたら鏡の顔も怒ってた
笑って鏡をのぞいたら鏡の顔も笑ってた